

新編水滸畫傳

五編

五



門入 21
875
45

新編水滸畫傳卷之四拾五

東武

高井蘭山翁

譯編

明治三十二年
七月十日
講求

○宋進多州小失指

相宋を城に於て二百餘りの去を遣く群り來て四方より
死圍を以て宋を侵ら門外小出て云我汝おとりの支府小馳て分脱
すべしとて自ら練せりしに船に去るに於て肉小れ入李達と搜し
乃れ李達はもや見えざりしに先宋を引て支府小ありりり以時知府
を廉の妻舅が殺され方と成て大に怒り初宋を踏の下小引出させ
怒り罵り云乃れ汝いんぞ殷天錫を殺しとや宋進を去るに宋世宗の
子孫として太祖皇帝より鉄券を賜り今初滄州に居住に這回叔父
柴皇城が病と妨んが為の事小尚池小ありしに叔父不幸として死去

一、素悲歎小逼りぬ。折箭。殷天錫来て。頻りに我を移れと。憐れし
 刺へ来と。敲んとして。二三十人をもめり。由多。李大と云ふ。素と救さんと
 欲し。保て。殷天錫と殺し。之。知府益怒て。云。李大とや。ん。汝が。家人
 ち。ん。ん。汝が。云。と。信ずし。て。い。ん。ぞ。放て。人。と。殺さん。や。汝。又。擅に。彼。と。逃
 し。高に。友。府。と。欺んと。罵。も。我。今。汝。に。白。状。と。せん。と。て。已。に。た。る。不。命。し。
 鞭。打。見。と。す。し。知。に。素。を。大。小。呼。て。云。家人。李大。我。を。救。んと。欲し。保て
 人。と。打。殺し。と。ふ。何。ぞ。我。身。小。干。え。や。况。や。我。の。本。祖。皇帝。の。鉄。券。と
 不。持し。と。若。る。ら。ん。汝。私。の。仇。と。夾。で。刑。罰。と。行。え。んと。す。ら。ん。是。何。の。乃。理
 ぞ。知。府。が。云。鉄。券。は。何。れ。不。り。や。素。を。云。我。滄。州。の。居。宅。小。命。と。也。と。や
 人。と。馳。て。これ。と。乳。妻。し。め。れ。ば。近。日。の。内。必。然。死。す。べし。知。府。大。小。怒。て。云。
 汝。奸。賊。我。と。結。し。欺。んと。欲。も。我。何。ぞ。汝。小。解。れ。ん。や。と。遂。に。左。右

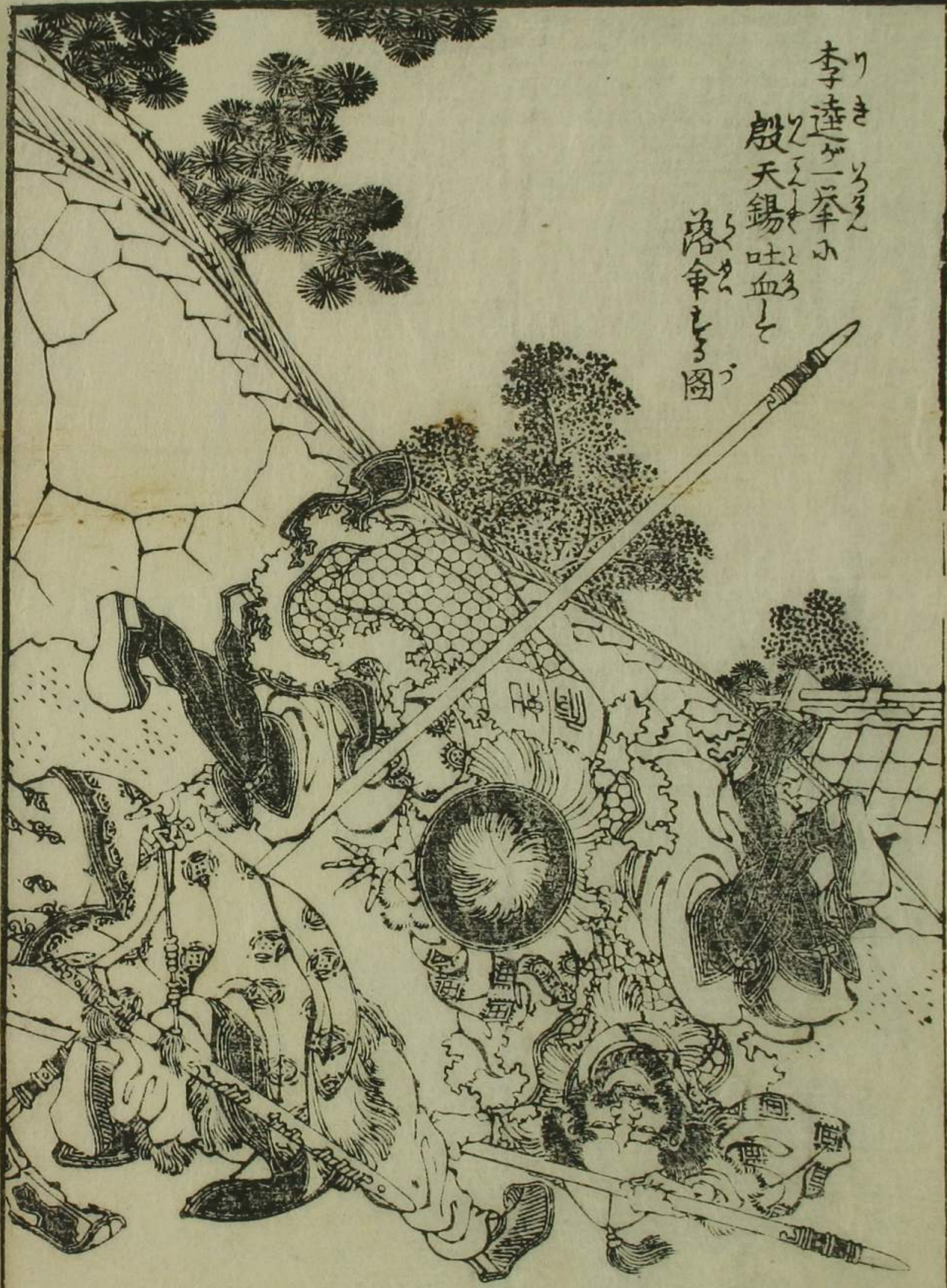
の。下。友。に。命。じ。お。し。め。られ。ば。素。を。忽。ち。皮。肉。と。亦。破。られ。鮮。血。濺。く。と。し。
 紅。に。染。不。り。は。時。素。を。ハ。殺。不。務。は。家人。李大。不。命。じ。殷。天。錫。と
 殺。させ。ら。る。と。云。られ。ば。知。府。怒。て。素。を。に。頸。枷。と。枷。し。わ。先。死。囚。牢。の
 内。に。監。し。素。く。これ。と。ち。せ。り。又。旋。風。李。達。は。連。夜。不。弛。し。梁。山
 泊。小。洞。り。刑。法。既。飲。不。す。と。え。し。知。に。素。全。是。と。見。て。大。小。怒。ん。る。素。不
 力。と。按。て。李。達。に。砍。て。蒐。む。李。達。も。斧。と。揮。て。お。迎。ふ。晁。蓋。宋。江。等。は
 法。豪。傑。壯。し。く。危。と。多。て。互。人。と。杜。住。び。別。し。て。宋。江。河。を。尋。り。て。素
 全。と。密。謀。め。向。に。小。衙。内。を。殺。し。し。る。は。今。李。達。が。私。の。面。面。不。あ。は。ば
 是。刑。受。身。と。山。陣。に。邀。ん。が。る。の。計。し。て。李。達。小。命。じ。と。白。れ。ば。
 晁。天。王。吳。軍。師。宋。江。二。人。が。罪。人。賢。才。今。日。山。陣。に。上。り。な。ら。ん。ハ。速。に
 旧。惡。と。忘。れ。一。向。心。と。月。じ。り。し。力。と。恨。て。共。に。大。義。と。與。し。之。と。し。又

李達と呼びて云るは汝軍一々朱兄と稱し罪と謝せよ李達これと
呼びて大に吼り呼びて云るは彼いんぞかこのごとく放肆なるや彼山陣
小上てより以來未だかつて半點の功と違ふと叫ぶる小我いんぞ却
て彼と稱せんや宋江と云る日小衙内と殺しつゝ汝が罪をわら
ざれや朱長兄の系汝よりも年長なれば吼宣し我が爲に罪と謝
して朱長兄と稱せよ李達も既稱せん氣及いりりしを宋江に
誅られ即ち朱全小對して云るは我一點も汝と怕る小めねども
宋長兄再三誅めるよ由多我母と汝とおすごとく遂に斧と撒き
取れとけりい一々朱全是と見て謝せりと息一知に晁蓋於
て酒宴と役けて和睦の義とを調り以時李達又依既小對
して朱をが叔父宋皇城が叔とて殷天錫と殺しつゝ不承詳に

送りしを宋江大小驚て云已に初のどくんば必定宋大友人小禍と
驚しつゝ友府小探へ一吳學究が云長兄先驚きさゆふことなれ
戴院長ゆりな消息分明なれいん李達問て云戴院長は何れの
処に於けるや吳月が云我汝が宋大友人の敵小在て事を惹かさん
ことと云れ戴宗と馳て汝を山陣に呼回さるるが汝が唐州小往
つると云て彼又唐州に馳て汝を尋んと必死するんといまも汝は
さうに一人の小賊来て戴院長の汝山と報しられ宋江自ら是と迎へて
宋大友人のことと云れ戴宗答て云宋大友人李達と携へ唐州
小往ありと云し宋江も唐州に馳て消息と探聽し知李達已に
殷天錫と云ふと殺して走りぬれ友府の人を馳て宋大友人と
捉へ已に今牢中小入るを此命を旦夕を保らざる晁蓋又李達

李達と呼びて云るは汝軍一々朱兄と稱し罪と謝せよ李達これと

李逵が一挙に
殷天錫吐血と
落命をす図



と責て云汝何ぞ割る如に於て禍を惹出し割へ人と若しむるや
李逵答て云宋大友人の叔父葉皇城の被殺天錫が非なる小宅と
棄んとするうに赤辱され遂に是より病てお果する小般大錫と
死亡悲歎の中へ又来て宋大友人と歩んとて由名我をもと敵ん
とて却て彼を殺す之報ひ活佛たりとも焉んと終是を見らに
忍びんや晁蓋が云宋大友人の亦来山陣小大忍めり已に今傑縛の
危きに遇ゆるにいんど山を下つて是を救はざらんや我の如く
唐州小弛めん宋江が云長兄の山陣の主自ら晝夜をく親自
馳めんや亦の後來宋大友人の恩と義りしとるれば長兄小替てお
く彼地小奔向すや其用が云唐州城大を以て以て人とお之
去糧も又多し是等宋小看べくは先林冲花榮秦明李俊呂方

郭盛孫立歐鵬楊林鄧飛馬麟白猪ホ十二人の取次小又千餘
の人をも与へ先疎と一宋江呉用共に来合雷横戴宗李逵張
横張順楊雄石秀ホ十人の取次の三子の入ると死して後陣と
一む殿に候へて馳向べ可きんとも子か空り玄己に調りしつら
宋江ホ衆人後に晁蓋ホ小別れて山陣となり別前後と候。唐
州へを奔る先疎の人をも亦唐州の界にありし知小友軍とも
これを見て是に知府多廉に告ぐ。多廉冷笑ていも彼盜賊ホ
梁山泊小薙れ立て我程自るを棄して歩平げんと思ふが言
今日彼自り試処に來り天殺小功と成しめあり小志と候んで此
百姓ホと呼聚て城とちして已に城中の人をも悉く引率して城外に
歩出る亦来る廉が幟下小三百の曹玄めり是を名けて飛天神玄

とくは云々なり。於て山東。河。水。江。湖。南。支。淮。ホ。の。地。より。擇。ひ。出。し。る。勇
 士。亦。は。三。百。人。各。一。振。小。結。束。し。て。敵。に。披。掛。流。石。を。廉。に。隨。て
 日。々。城。外。に。出。て。お。洗。小。陳。勢。を。強。列。し。令。と。鳴。し。鼓。を。擊。つ。と
 ち。敵。の。勇。と。休。ま。び。り。依。林。冲。花。榮。秦。明。ホ。ハ。子。の。軍。を。と
 引。て。弛。來。り。遂。に。支。軍。お。對。し。策。軍。と。始。め。互。に。陳。御。と。射。住。り。如
 に。林。冲。と。陳。希。小。驕。出。し。言。夢。に。呼。し。云。り。言。聲。別。に。豪。傑
 の。心。速。に。出。て。傍。肩。と。交。せ。よ。言。廉。是。と。呼。て。二。三。十。人。の。勇。士。を。左
 右。小。從。へ。日。々。高。先。小。を。出。て。罵。り。り。汝。盜。賊。ら。自。死。せ
 ろ。と。放。て。來。て。我。界。と。犯。え。ん。と。す。や。林。冲。大。小。怒。て。云。汝。氏。と。害
 す。大。賊。何。ぞ。あ。て。大。云。と。い。や。我。今。は。汝。と。亦。破。て。亦。ら。に。亦。亦。小
 攻。より。汝。一。族。君。と。欺。く。言。休。が。事。と。殺。して。天。下。の。大。害。と。除。く

へ。と。言。廉。是。を。呼。て。大。小。傍。り。別。左。右。と。顧。て。推。う。る。彼。と。活。捕。し
 呼。り。統。判。友。于。と。云。と。云。と。と。確。せ。力。と。搦。し。て。陳。希。に。斬。て。出
 林。冲。是。と。呼。て。日。々。と。飛。せ。捨。て。抛。て。お。途。へ。我。と。合。ふ。と
 て。干。車。遂。に。林。冲。小。擲。れる。より。下。に。去。倒。に。落。下。り。言。廉。是。と。見。て
 大。小。驚。き。又。左。右。に。呼。つ。て。我。し。め。り。如。に。日。々。統。判。友。温。文。宝。と。云。と
 長。槍。と。挑。て。林。冲。に。擲。く。時。小。秦。明。林。冲。小。替。て。これ。と。逐。へ。遂。に
 言。と。交。て。お。我。の。女。お。よ。に。秘。術。と。尋。し。て。勵。ま。り。れ。は。我。已。に。二。十。餘。合
 小。お。れ。未。だ。精。負。と。分。と。り。し。如。に。秦。明。故。意。た。の。狼。と。害。さ。り。る。に
 温。文。宝。便。と。於。て。擲。入。ん。と。時。秦。明。急。に。棍。と。擡。て。お。り。し。も。文。宝
 勿。ち。及。び。碎。れ。死。小。り。に。於。て。支。軍。喊。の。聲。と。合。せ。て。散。り。小。攻
 戦。ふ。言。廉。の。女。人。の。統。判。と。殺。さ。り。て。公。中。小。怒。り。於。て。宝。劍。と。抜。て。邪

術を以てひしむるに已が陳中より一深の雲生し。壺ちの半天小沖
 て。は方に散し。如に。俄に。旌風大起。て。砂と。飛せ。石と。走し。せ。林
 中。が。陳小。落入し。法軍大。小。驚き。自。潰。れ。て。奔。走。し。言。廉。是
 と。見。て。三。百。の。飛。天。神。を。を。り。て。緊。し。く。擊。し。し。林。中。が。云。も
 捨。も。星。隕。雲。の。散。る。ごと。く。七。の。八。續。し。て。東。南。小。逃。走。り。遂。に。一
 子。餘。人。付。れ。術。又。十。里。を。り。引。退。て。陳。と。荒。野。小。な。り。以。時。宋。に
 後。軍。も。已。に。あり。し。林。中。ら。お。迎。軍。の。次。弟。洋。に。渡。り。し。小。宋。に
 是。と。夢。て。大。に。驚。き。即。ち。兵。用。に。向。て。云。ら。い。這。何。等。術。な。れ。ば。か。く。の
 ごと。く。利。害。を。ら。や。兵。用。答。て。云。ふ。に。是。必。定。幻。術。を。う。ん。弟。親。方
 也。も。亦。彼。が。術。を。破。て。風。と。回。し。火。と。返。し。の。法。と。比。ば。彼。却。て。已。が
 術。を。破。て。已。が。云。を。傷。ふ。て。わ。ん。宋。に。是。と。夢。て。彼。九。天。玄。女。より

楊。り。し。天。書。と。符。を。に。果。し。て。款。の。幻。術。を。破。て。風。と。回。し。火。と。返。し
 の。法。あり。宋。に。大。小。收。て。其。既。破。き。秘。法。と。知。中。小。兒。え。以。夜。又。之。の。術
 後。小。金。と。鳴。し。鼓。と。撰。て。壺。ち。に。城。下。に。攻。め。言。廉。これ。と。夢。て。是。の
 人。も。と。破。し。れ。く。城。下。の。介。小。馳。出。て。陳。と。對。し。宋。に。劍。と。揮。ひ。る。と
 躍。せ。て。陳。前。に。跑。出。遂。に。款。軍。と。弟。を。見。る。に。言。廉。が。陳。中。に。思。及。の
 旌。と。搖。動。し。て。三。百。の。神。を。方。左。に。お。列。す。兵。弟。宋。に。小。對。し。て。云。彼
 思。及。の。旌。と。搖。動。し。る。を。見。て。幻。術。と。知。人。も。も。思。く。ハ。又。妖。法
 と。か。さん。見。見。自。ら。を。と。る。又。宋。に。が。云。軍。少。心。と。安。し。申。し。我。自。ら
 妖。術。と。破。る。の。法。あり。法。軍。疑。心。し。て。只。顧。す。め。と。下。知。と。な。る。相。又
 言。廉。ハ。三。軍。小。命。し。款。を。び。とも。あり。に。城。下。を。う。れ。兵。軍。一。體。の
 害。く。と。夢。て。お。夢。と。定。め。以。時。一。度。に。力。と。併。せ。斬。て。出。速。小。城。を。宋。に

を生提へし。我必ず奇く恩賞を祈んとて。遂に宝劍を提て陳
 赤小をさし。宋に大に罵て云。高廉奸賊我昨夜未だ奇くさし
 由急強て汝小一疎を破れぬ。今日我汝を生提て仇を報んと。高廉
 大小怒て云。汝及賊子くると下り。御を清よと。口中に咒符と書て
 宝劍とたふ小揮し。忽ち又一朵の雲をす。一疎の怪風起り。砂を
 走せんと飛せて。宋江が疎中に落る。宋江是を見て目く口中に
 咒符と書し。劍と構し。血に被強風忽ち已が疎中に吹回つて
 宋江が疎中より来り。さり。宋に急小軍をとり。喊さ呼で攻める。
 高廉術を破られて。心中に強と。又彼洞の驛とて。寄せり。忽ち
 一の猛獸あれ出。牙爪強爪と舞して。宋江が疎中に跑る。宋江が
 軍をこれと見て。大小驚と。皆右往左往小逃散し。宋江も

又後既飲と共。馬を回して奔走し。高廉も劍を揮て。妖法とのひ
 一。忽ち飛天神玄。忽然として。前面に現り出。前後より夾て攻る。に
 宋江より大に破れ。我後れと。先と争ひ逃走る。高廉後に追て
 追撃する。二十餘里。小きて三軍と收免。遂に揚城と揚て。再び
 城中より入り。宋江の山坡の下。小陣をて。敵軍を聚るに多く。士
 卒と付れ。れども。尚ほがく。法既飲一人も戦死す。宋江又兵
 用と商議して云。我軍勢已に支軍。亦負今更款の妖法を放り。
 神玄と付の計策は。あはれ何と。これ小高しんや。異用云。彼必
 以。後不奇く。今宵夜付に。来るべし。我下り先計と。設これと。防が
 んと。揚林白猪。亦不云。おし。高へ。代知に。及。高。其。降の。既。既。ハ。於て
 回陣の内。小。引。退。て。先。人。る。の。力。を。欺。め。り。揚。林。白。猪。ハ。之。を。引。て。

半里をり候の草原さぬに埋伏してありしに。そ夜一更の時小
 きて。四面小雲生じ。八方不常吹り。一陣の風き風塵に起り。少刻大
 雨降り。雷電霹靂天地も崩る。許し揚林白旗三百餘人と
 然して。草の内に伏し。稍隙を搦げて陣辺をうらむ。かの高廉三百の
 陣まじりて。密に陣中に突入り。高廉中へ人ありと見て。急に陣
 回し。とて。時揚林白旗喊の聲と揚て。一度小咄と斬て出し。六
 高廉計に中りぬと警り。慌忙を奔走し。揚林木わへて刀未せ。只
 一向亂箭と放て。ぬよりあびく射蒐るに果して。高廉がたの臂に
 流箭中りし。己に危く。とて。ぬに。三百の神玄齊し。高廉と掛け
 逃る。揚林白旗面と冒して追ふ。教玄竹多砍殺し。高廉
 は三百の神玄に掛り。れて。ぬく。き。逃延し。高廉木わへて陣入。は

己に去と退けし。ぬに。忽ち。高廉雲收りて。再び。一矢に。星現れ。月明
 大時揚林白旗。二十餘人の神玄と生捉て。宋江が陣中。小引せ。彼
 風雲雷雨の。と。祥に。流り。れば。宋江異用。大。小。警て。云。ぬより。彼
 地へ。僅。又。里。小。足。さ。り。ぬ。ら。ぬ。い。ん。ぞ。又。以。迎。え。風。雨。を。高。廉。人。獲
 論。し。て。い。ま。是。う。さ。り。ぬ。高。廉。が。妖。術。を。用。い。て。揚。林。又。云。高。廉。自。ら
 髪。を。披。剣。を。揮。て。陣。中。に。斬。入。り。高。廉。遂。に。一。箭。に。中。つ。て。城。中。に。逃。回。ぬ
 我。軍。ハ。小。勢。を。以。て。敵。て。去。退。せ。し。時。神。玄。二十。餘。人。活。捕。し
 の。ま。ち。り。と。帳。方。に。引。出。し。ら。れ。ば。宋。江。別。白。旗。の。命。と。て。一。改。と。刻。さ。せ
 り。り。已。ふ。し。と。旗。改。め。七。多。分。つ。て。陣。を。七。本。に。列。ね。緊。し。と。あ。め。又
 疾。歩。の。ん。と。を。防。ぎ。暗。に。人。と。山。陣。に。馳。て。救。の。を。求。め。り。高。廉。ハ。矢
 小。中。て。城。中。に。引。退。き。別。ち。三。軍。に。下。知。し。て。城。を。堅。固。し。ち。し。て。矢。底

愈ば再び我をか。宋江と活捉べし。も易りなる。宋江は先小支陣と
 破られ多く多付せて。中添く然へ劉吳軍師と商議し。云る
 へ此言廉す。程放ると結成。他雨より救の去来て我とゆけるは
 いかる計を以てこれ小敵也んや。呉用が云来つ。老小に高廉が妖
 法を破るべ。程方子速捕とせし。但し妖法と破らん。只獲
 州小人を馳て。公孫孫を邀へ来る。高廉が妖法小術て立知に賊と
 乘取し。法既飲これとめて。高廉が云小術し。時小宋江が云
 向小戴院長と獲州に寄。公孫孫と訪り。あられを逆小辱遇げて
 虚く悔りぬ。今更何れの如と為せんや。呉用がいも。獲州の支配
 村々極めて多し。いんど数日のろ小遍く為そんや。獲れが公孫
 孫ハ原法潔の乃教るれば。定めて名山幽洞の内小居。郷を住し

今回又戴宗と馳なり。獲州の支配下小於て名山仙境の地のと
 尋し。何處獲れ。必法公孫先生の消息あるべし。宋江も云。何日
 何れ戴宗と逢て。云る。賢才又我為に獲州に馳て。公孫先生と邀
 へんや。戴宗が云。系純の人の最易りれた。只一人の取れとゆ。共小
 同往せむ。いよく可なり。李逵をよめて。云。系放て。去見小孫の
 戴宗が云。汝が我小同往せん。云。宜し。我を汝を密に違くと云
 人。皆しく伴ん。李逵が云。我交して違くと云。宋江も呉用も又齊しく
 李逵を戒め。汝必ず禍と惹出はと云。呉公孫先生小遇む。速に
 引て回るべし。李逵が云。我殷天賜を殺して。宋大友人と若れぬ。由
 我これと救えんと欲して。獲州小住んと欲する。豈敢て又禍と惹
 出さんや。去見必ず心と安ん。又此回は是非公孫先生小辱の合



宋江が伏兵
高廉と射つ
図

連ふは如に邀ふなり。来るべき時、肯はず。我れ、先きの首、小腰を
 差ても、推へり来る。宋は異用責て云、汝又、麻を吐や、来るべき肯
 ば、戴院長官、一く、脱括すべし。汝必ず、怒を棄て、麻を失れ、と
 言むべし。李達、深く、飲掌し、られ、戴宗、四つの甲、を、二つハ
 已が、腿、小つ、又、二つ、李達、が、腿、に、差て、遂に、宋は、異用、責、の、面、小
 辞、列し、高、唐、州、と、訛、出、神、巧、の、法、を、な、し、李、達、と、共、に、獲、州、を、取
 を、棄、し、一、日、八、百、里、の、術、を、馳、て、急、し、ふ、未、だ、旬、日、も、過、さ、る、獲、州、の
 城、外、小、至、て、旅、宿、小、歇、を、翌、日、友人、城、中、小、入、て、終、日、乃、れ、一、を、公
 孫、務、と、知、り、さ、る、一、人、も、な、く、次、の、日、又、下、小、將、と、尋、ね、られ、た、曰、し、
 消息、と、は、ご、り、り、り、

○戴宗智をあらて云孫務と云

初、れ、を、李、達、大、小、焦、燥、て、云、彼、是、乃、人、何、れ、の、如、に、隠、れ、て、我、等、と、若、ら、や
 我、等、彼、小、遇、べ、以、と、揪、へ、て、拖、り、回、り、て、戴、宗、是、を、笑、て、大、小、怒、り、汝、亦、礼、を、
 吐、や、必、ず、吾、れ、の、と、を、急、く、い、ふ、と、曰、日、も、一、く、孫、務、に、由、り、次、の、日、又、村
 里、那、縣、遍、く、搜、し、一、乃、の、酒、店、入、酒、食、を、求、め、り、以、酒、店、の、小、廝、是、と
 見、て、肉、小、引、入、支、度、と、一、通、し、る、孫、務、留、し、て、又、一、人、の、老、翁、入、來、て、酒、食
 と、求、め、り、れ、む。小、廝、子、速、く、色、ト、忽、ち、に、酒、食、と、具、へ、先、老、翁、が、亦、小、具、へ、戴、宗
 李、達、の、來、り、を、承、知、り、し、む、李、達、是、を、見、て、大、小、怒、り、呼、て、云、我、ら、友人、ハ、宋
 來、ら、れ、何、れ、老、翁、と、先、小、一、我、亦、と、後、小、す、る、や、と、て、老、翁、が、亦、の、酒、を、取、て、地、上
 に、投、去、り、れ、老、翁、忽、ち、大、小、怒、り、刺、ち、來、り、李、達、と、揪、へ、て、罵、り、る、ハ、汝、ハ、何
 奴、を、れ、ば、何、の、と、云、れ、と、云、れ、や、李、達、一、れ、と、笑、大、小、怒、り、叫、び、拳、を、奉、て、打、ん
 と、り、知、れ、戴、宗、忙、し、く、一、と、止、め、老、翁、小、對、し、て、云、り、る、ハ、那、く、ハ、老、翁、を

礼の罪を免し、又彼らも村中の聖人として多く人の礼と云う。彼老翁は
彼に對し、怒りと怒り、自ら年老成るに形く、只これと云ひ、又老翁
いさく、足下をいまぞ知り、おすまじ。我も是より、我を為と仰りて、長生不死の
法と聽き、以り、延引する時、傳法の時刻と差ふ。以、店の小厮、亦來、以、
と知り、ゆる多、我おし、思ひ、より、後、れて、あり、し、先、我、亦、酒、食、と、具、
遮、莫、以、漢、子、ハ、い、ん、ぞ、か、く、の、ご、ご、毎、れ、を、や、れ、や、戴、宗、が、云、老、翁、ハ、い、
の、所、より、來、り、有、り、人、を、て、又、何、れ、の、如、不、朽、く、長、生、不、死、の、法、と、云、ひ、や、老
翁、答、て、云、我、を、別、以、豫、州、内、九、氣、縣、の、二、仙、山、の、下、に、修、行、我、今、日、私、用
あり、て、以、迎、に、出、ぬ、る、由、を、急、不、由、て、二、仙、山、小、山、より、飛、去、人、の、後、ト、あり、長、生
不老の法と云ふと、歎ん、と、歎、以、戴、宗、これと、歎、心、中、に、悲、ひ、る、ハ、恐、く、公、孫、播
も、彼、山、小、壺、居、し、て、立、あ、る、人、軍、一、く、け、老、翁、に、同、人、と、て、彼、ち、回、て、云、老

翁の在、如、子、公、孫、播、と、云、人、の、如、也、老、翁、云、公、孫、播、と、云、人、の、地、小、向、ま、せ、と、
る、者、あ、る、は、け、人、の、別、後、が、隣、家、は、そ、れ、一、人、の、老、母、あ、り、前、年、か、入、り、く、雲、遊、し、
休、玉、小、生、る、が、以、日、又、も、成、小、回、り、ぬ、湯、細、ハ、公、孫、一、法、之、生、と、云、今、ハ、俗、姓、と、稱、
し、唯、法、人、と、号、以、戴、宗、が、云、ま、け、數、日、公、孫、先、生、と、名、を、方、か、お、り、ぬ、也、
孫、播、と、い、ふ、名、を、人、を、知、ら、ず、し、て、誰、と、又、け、知、ら、ず、二、仙、山、之、我、師、の、法、を、公、孫、云、
知、り、彼、地、ハ、四、十、五、里、の、乃、あ、り、戴、宗、又、向、て、云、法、人、今、地、を、小、出、せ、る、者、老、翁、云、
法、人、ハ、別、種、法、人、の、門、外、に、そ、と、是、老、師、の、法、を、誰、ハ、何、の、道、あり、と、再、び、
云、必、に、出、ん、や、戴、宗、これと、歎、大、小、悦、び、別、老、翁、小、若、て、云、乃、ハ、老、翁、ハ、先、二
仙、山、小、壺、より、我、等、ハ、再、び、旅、亭、に、回、り、乃、り、亦、刻、の、事、ハ、ん、と、遂、に
酒、食、を、あ、ら、む、調、別、れ、乃、小、彼、老、翁、も、ま、酒、店、を、出、て、二、仙、山、回、り、乃、り、
戴、宗、亦、遂、ハ、旅、亭、を、出、り、甲、子、と、名、を、取、て、友人、九、氣、縣、小、池、乃、れ、壺、時、小、二

見山の下ふゆは風系せりるふ山我くと峰へ鶴東林小候深溪
幽く遙くして水西谷小宮に新雲岫と出て清風洞小入山系道
士候仍する処にわづらんを定めて仙翁の茶煉不き人交して凡人の
徑處とくえざりたり。以時戴宗一人の樵夫に遇て問らる。何れ清道
人の家は何れ小丘や。樵夫指して山口とて門外小石橋の処乃ら
是清乃人の住宅と戴宗李逵これとて大石橋び。越て山口とて
比ねとて果して十餘里の系をあり。周遭の於て短牆うして
小石橋の系あり。戴宗李逵已に橋を過て門辺小丘あり。忽一人の
童子出られ戴宗これ小同と云。清乃人の家小丘や。小童答て云。清乃人の
後堂の外小丘とて丹と煉居あり。戴宗心中に候び初ち李逵小對し
て云。汝の橋く比ねに立て候べし。我の先内小丘とて問んとて。越て門内小入

る初一人の老婦もとある。戴宗これとて。忙しく礼と祈りて素の
清道人小まきえんがぬ。今日堂宅に候候なり。老婦問て云。友人の姓名の
いん。戴宗答て云。素の戴宗と申す。山東より来たり。老婦が
いよく我將清乃人の屋に雲遊して来と申す。戴宗が素の昔
より候候。唯一句の要の事と昔人が特地来て候ひ。老
婦が云。將は實に我のわづら。いんぞよく對面するんや。よろしく問て
再び来りぬ。戴宗是頃答て先の外小丘。初李逵小對して云。乃ら
今日とすべし。汝と申す。汝内に入て清乃人と云。老婦り
將は我にわづらといふ。汝勿ち怒り吼て。我内と申す。必ず老婦
と傷よと云れ。我又走り入て汝と責らば。汝また怒りて息を靜ま
李逵これとて。先二つの斧と腰に挿し。堂に門内小入て人也在と

同くは。老娘出て李達と逢へお顔もど先見もどさ。心中先ん
と相れ別態動不同々。友人の何れの所より来りし。李達答
て云。我を梁山泊の豪傑。星旋風とよきもの。今宋公明の命を
来て。公孫孫と信候。汝老娘。速に彼と出さ。我は深く感候
す。一。萬一彼と出さずんば。我今一把の火。汝が家と焼拂ひ。立
ぬ。一片の白地とま。老娘が云。汝乃人の雲遊して。来が家。に
此の。豈う。彼と出さんや。李達これと。泣いて。大お罵り。怒り。斧と揮て。先壁を
お。冊し。られ。老娘も。探高とせ。怒。李達。恰も。霹靂の。ごとく。小乳
て。汝何ぞ。公孫孫と。出ぬや。我今。汝と。害見と。又。斧と。揚て。む。
ふ。老娘。公。老。公。と。入て。大。不。驚。懼。一。怒。り。眼。と。眩。一。比。上。不。暈。倒
ぬ。時に。公孫孫。後堂より。走り。出。を。乳。と。多。く。身。れ。を。啼。り。一。如。小。

戴宗。小く。を。入て。如。玄。源。く。李。達。と。責。り。別。老。娘。と。扶。け。起。し。て
罪。と。謝。し。られ。む。李。達。も。目。し。く。斧。と。撒。て。罪。と。情。を。公。孫。孫。が。云。ぬ。
兄弟。先。程。面。小。入。交。と。遂。に。友人。と。逢。て。後。堂。に。在。り。先。謝。し。て。云
ふ。あ。兄弟。遠。路。智。と。相。向。ふ。て。我。等。と。ん。と。感激。以。戴。宗。が。云。ぬ。
生。山。と。り。中。ひ。て。後。向。中。已。に。蕪。州。に。来。て。城。中。城。外。遍。く。尋。ね。
う。も。終。に。先生。の。宅。を。知。り。て。舟。一。一。由。山。で。り。這。次。宋。公。明。の。家。
大。友人。と。救。え。んと。歎。し。て。高。唐。州。小。岳。向。め。り。し。如。小。知。府。を。摩。が。知
術。小。友。陳。と。破。ら。れ。親。方。に。付。れ。る。人。も。若。干。う。て。今。更。斗。の。施。に
べ。も。あ。る。已。に。危。急。に。及。ぶ。以。於。に。今日。又。宋。と。李。達。と。馳。て。先
生。と。信。待。め。る。ん。と。先。刻。途。中。の。酒店。に。於。て。幸。ひ。人。の。老。翁。小。遇
る。が。先生。と。隣。家。ら。う。う。お。て。宅。を。指。教。へ。一。由。教。て。候。候。を。と。之

ども母詐く。先生の末を雲遊して。お小居方と宣ひし。由名かき達
 とくくお肉と雨しめ。慢りに先生と縁し。出まわらせり。伏して取
 くハ無礼の罪せ先し。又宋長兄今も唐別に在て先生と縁まじ日と
 過はしと奉のぞり。若先生旧日的情を顧みたり。まじく学を授けり。始
 終大義と金くししめ。お公孫孫が云我知年の耐より天下に雲遊し。
 多々豪傑の士と交り。結て梁山泊に聚り。お小居方。向に不忠なる
 に回。再び山陣に上ると縁はざる。不忠の第一の老母。晩年おむて奉
 養する。お公孫孫。我自ら。是れ小住。第二の老母。養人。奉と若りに
 ぬて。先生不死の法と授せしめ。お公孫孫に因て。我若し梁山泊より人來
 て。訪んとし。恐れ。別名と清乃人と改て。お公孫孫に隠れ。我毛ハ大義と
 忘れ。お公孫孫は。お公孫孫。唯止しと。お公孫孫。山陣お回。お公孫孫。戴宗が云

今宋公明危きに。縁て居る。先生。廣く仁慈と惠をのひて。先生。且
 當と相お公孫孫。我を長兄の。お公孫孫。憂ると。お公孫孫。只根。お公孫孫。老
 母と棄が。況や老師。養人。且。お公孫孫。奉と若り。しめ。お公孫孫。お公孫孫
 され。いんぞ。肯て。放ち。お公孫孫。這回。実。法に。懸。お公孫孫。戴宗
 これ。お公孫孫。地上。お公孫孫。再三。酒と。酒。お公孫孫。公孫孫。これ
 月。お公孫孫。お公孫孫。お公孫孫。お公孫孫。賢。お公孫孫。休。お公孫孫
 再び。お公孫孫。お公孫孫。お公孫孫。戴宗。お公孫孫。お公孫孫。お公孫孫。お公孫孫
 蓋。お公孫孫。戴宗。お公孫孫。お公孫孫。お公孫孫。お公孫孫。お公孫孫。お公孫孫
 あり。お公孫孫。宋長兄。お公孫孫。活。お公孫孫。お公孫孫。山陣の
 大義。お公孫孫。七。お公孫孫。お公孫孫。お公孫孫。お公孫孫。お公孫孫。お公孫孫
 かく。お公孫孫。我。お公孫孫。お公孫孫。お公孫孫。お公孫孫。お公孫孫。お公孫孫



みせぎん 二仙山
戴守
りき 李達清道人の
きよ 居と問

図



地乃人軍。我小孫。老師の親中。小来り。夜と。即日戴宗李
達。二人を引て。二仙山。小より。乃時。冬の初。より。一日。短く。夜長
く。て。曉る。に。易し。公孫。孫。木。三人。漸く。山に。あり。し。如に。紅日。初
落。口。方。漸く。暗し。公孫。孫。自。戴宗。木。二人。を引て。松樹。の。蔭。の
小。孫。木。より。木。ら。に。拜。去。人。親。門。の。前。に。あり。し。戴宗。既。と。搦。て。門
上。と。り。ふ。大。い。ち。る。一。片。の。額。あり。額。の上。と。金。字。と。以。て。紫。虚。觀。と。書
り。り。二人。遂。に。親。門。の。内。に。入。り。亭。下。と。り。り。如。に。二人。の。童子。と。い
公孫。孫。木。と。延。て。松。鶴。豹。の。内。に。入。り。尚。時。拜。去。人。の。宋。に。雲。府。の。上。小。坐
して。公孫。孫。木。と。近。く。括。き。く。公孫。孫。木。向。ひ。前。で。物。と。り。り。如。に。戴宗
も。亦。忙。し。く。身。を。翻。して。地。上。と。相。伏。し。杜。思。旋。圍。の。例。小。ま。て。晴。小
所。去。人。と。白。眼。り。り。去。人。先。公孫。孫。木。同。て。云。ひ。去。人。の。何。人。ぞ。公孫。孫。木

答。て。云。去。人。向。に。老師。に。告。る。如。の。梁山。泊。の。義。弟。也。今。宋。公。明。も
唐。州。と。攻。て。知。府。高。廉。が。妖。法。不。敵。陣。と。破。れ。て。危。急。不。及。ひ。し
ゆ。宋。公。明。は。去。人。と。馳。て。去。人。と。邀。ふ。孫。木。未。だ。敢。て。高。り。に。兼。元
也。先。來。て。老師。小。候。ひ。ま。る。拜。去。人。が。女。孝。ひ。に。火。坑。と。脱。れ。今。既
長。生。の。法。と。修。見。と。い。る。に。何。ぞ。再。び。世。俗。不。離。つ。て。自。ら。大。事。と。保。ん
や。必。ず。擅。小。と。せ。る。は。く。く。戴宗。是。と。呼。び。宋。公。明。皆。時。公孫。孫。先
生。と。信。信。して。款。と。破。ら。んと。款。け。り。高。廉。と。が。た。敵。ひ。り。再。び。高。山。に
還。し。を。う。せん。伏。して。飛。く。の。伎。く。許。容。わ。り。て。公孫。孫。先生。と。信。去。人。既。去
人。が。云。下。去。人。の。在。家。の。と。と。却。り。ゆ。ま。う。長。生。と。修。見。と。す。者。豈
よく。俗。事。に。礙。て。身。心。と。塵。さん。や。是。り。く。の。宜。し。く。速。に。ゆ。り。公孫。孫。木
於。て。の。變。し。て。許。す。ま。公孫。孫。木。命。と。背。く。と。能。は。遂。に。去。人。と。引。て。

再び山を下りし如に李達問て云彼主人何木の事と云ふるや我
 備ふれと尋ふ疑なくし戴宗云我主人堅く公孫先生を戒めて
 山と下りしめりぬ李達これとめて大小吼り賊軍の干の爲と
 経て此如小母り偶公孫先生に逢ぬれば何ぞぞ一々回らんや
 再三我を怒りと惹出さば二つの斧を揮て彼賊主人が尻を打碎ん
 と罵りし戴宗又これと河て云汝乳を云とさるれとて三人遂
 小公孫猪が後堂小母り一如に公孫猪又友人小對して云るは今
 宵ハ先我が家に歇まじ明日重くも宜し商議すべしとて各床
 ふして歇まじり時漸く二更の最後小母り李達暗に記て戴宗を
 言ふ戴宗を代念り睡りしうに李達殆ど眠んでおひるる我
 かく公孫猪に爲り遇ぬるに又彼賊主人一と云ふて探さるれば明る

不速公孫猪を引て唐州にゆべしと擅にまゑと定ぬ遂に二つの斧
 と拾ひて門外小馳お即ち月光小察し二仙山小跑より立ち去るに
 紫虚親の辺にきてこれと尋ふに友扇の大門と笑ししうに
 李達輕くと身と躍せ短檠の上に眺より影も大門の傍よりりて
 悄く小松鶴軒の糸にあり裡面と重なるに唯閑寂の静ありり
 編者のいよく往昔漢の張良黄石公小遇て云書と授り本朝の
 牛翁九八鬼一法眼軍術の秘書を写しぬといひ又鞍馬山の天狗
 僧正坊に劍術と飛翔の術を學ぶと云皆私伝を拜ひるなり
 貴くし一人小号伝せりめんとて希は和漢日月の痛くされん
 宋公明九天玄女小見えて天書と授り公孫猪我主人小學ぶ詭譎
 惟疾は一豹の文義強て習むべきものなりは然る小公孫猪が學ぶ如は

乃家之事^{なり}を^て法^は及^ん人^をと^し称^せされ^ば。其^の師^を殺^し去^り人^をを^も老^を莊^をより^出する^を
 未^だ流^らず^しと^も思^はれ^ば。秋^の氏^をあ^て汝^を多^くひ^に火^を坑^をと^し脱^れれ^ば等^のの^は從^はら^ずに^ん
 正^法不^思議^をと^し呼^びに^ま術^を奇^しく^し。乃^も且^もか^の法^を法^を修^める^を
 人^をと^し後^を展^を望^をの^を物^を十^を万^を貫^をと^し天^をより^賜ふ^を家^を業^をと^しく^を。晁^を蓋^を
 以下^を三^を既^をまで^を七^を人^を合^を并^をして^を。是^をと^し奪^をひ^しる^を人^を教^をの内^をなる^をも^も笑^をふ^を
 へ^き事^をす^るに^ん

新編水滸画傳卷之四拾又畢

